

令和5年度

事業報告書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

公益財団法人 音楽鑑賞振興財団

令和5年度 事業報告書

目 次

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業（公益目的事業1）	3
1 研究活動	
(1) 研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画	
(2) 鑑賞指導に関する調査	
2 普及活動	
(1) 指導法に関する講習会の開催	
① ONKAN授業づくりセミナー2023	
② ONKANインターネットセミナー2023	
(2) 研究大会・講習会等の後援	
(3) 広報活動	
3 出版・情報発信	
(1) 季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行	
(2) 書籍、映像資料の発行	
(3) ウェブサイト「ONKANウェブネット」のリニューアル	
II 音楽鑑賞に関する論文募集による助成事業（公益目的事業2）	7
1 助成研究募集	
2 賛助活動	
III 音楽鑑賞活動の普及事業（公益目的事業3）	8
1 財団保有の音楽関連資料の活用	
2 財団主催コンサートの開催	
3 財団後援・協賛コンサート	
4 電子書籍・音楽鑑賞ノートの販売	
5 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進	
6 チェンバロ音楽普及の支援	
IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業（公益目的事業4）	9
1 岡本地域緑地の保全活動	
2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施	
V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業（収益事業）	10

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業 (公益目的事業1)

1 研究活動

(1) 研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画

研究テーマを「学習評価の具体に焦点を当てながら、学習内容にふさわしい指導方法を示す」として、評価の場面について、具体的な子どもの姿と留意点をまとめ、よりよい授業づくりの参考となる事例を作成した。

(研究は令和6年度8月まで進め、その成果を令和6年度中に出版の予定。)

なお、オンラインによる小中各部会開催とした。

上記以外に、財団の主催講習会である「ONKAN授業づくりセミナー2023」におけるグループ研修を企画立案した。

回	開催日	検討内容
第1回	小学校部会 4月30日(土) 中学校部会 5月21日(日)	・学習評価の具体に焦点を当てた事例の検討 ・「授業づくりセミナー」グループ研修内容検討
第2回	小学校部会 6月11日(日) 中学校部会 6月17日(土)	・学習評価の具体に焦点を当てた事例の検討 ・「授業づくりセミナー」グループ研修内容検討
第3回	小学校部会 7月9日(日) 中学校部会 7月22日(土)	・学習評価の具体に焦点を当てた事例の検討 ・「授業づくりセミナー」グループ研修内容検討
第4回	小学校部会 9月23日(土・祝) 中学校部会 9月3日(日)	・学習評価の具体に焦点を当てた事例の検討 ・「授業づくりセミナー」グループ研修内容検討
第5回	小学校部会 11月23日(木・祝) 中学校部会 10月22日(日)	・学習評価の具体に焦点を当てた事例に盛り込む解説の検討
第6回	小学校部会 1月27日(土) 中学校部会 11月12日(日)	・学習評価の具体に焦点をあてた事例に盛り込む解説の検討
第7回	小学校部会 2月18日(日) 中学校部会 12月2日(土)	・学習評価の具体に焦点をあてた事例に盛り込む解説の検討
第8回	小学校部会 3月23日(土) 中学校部会 2月17日(土)	・学習評価の具体に焦点をあてた事例に盛り込む解説の検討
第9回	中学校部会 3月16日(土)	・学習評価の具体に焦点をあてた事例に盛り込む解説の検討

研究委員一覧 ※五十音順・敬称略

部会	名前	所属・役職
主管	藤沢 章彦	財団理事／元国立音楽大学教授
小学校	石井ゆきこ	東京都港区立芝小学校主任教諭
	井上 奈々	東京都千代田区立千代田小学校主任教諭

	河崎 秋彦	茨城県取手市立取手東小学校教諭
	清水 達也	東京都港区立麻布小学校指導教諭
	館 雅之	神奈川県横浜市立太尾小学校校長
中学校	安部 文江	長野県小諸市立小諸東中学校教諭
	小川 大輔	広島県三原市立本郷中学校教諭
	勝山 幸子	東京都港区立御成門中学校主任教諭
	高道有美子	東京都世田谷区立芦花中学校主任教諭
	水谷 愛	埼玉県川越市立鯨井中学校教諭

(2)鑑賞指導に関する調査

各地で実践されている音楽科の授業や、音楽科で今後必要とされるICT教材、教具に関する情報収集を行った。

2 普及活動

(1)指導法に関する講習会の開催

①ONKAN授業づくりセミナー2023

音楽鑑賞の指導と学習評価について、授業構想や授業展開の理解を深め、授業づくりについて具体的な事例をもとに考える研修を、《全体研修》(オンデマンド動画配信)と《グループ研修》(対面)で開催した。

日 程：

《第1回》全体研修： 8月 1日(火)～ 8月22日(火)

グループ研修： 8月19日(土)～ 8月20日(日)

《第2回》全体研修： 12月 7日(木)～12月28日(木)

グループ研修： 12月26日(火)～12月27日(水)

受講者：

《第1回》

全体研修： 65人〈内訳〉小学校教員27名、中学校教員27名、その他11名

グループ研修： 13名〈内訳〉小学校教員 4名、中学校教員 9名

《第2回》

全体研修： 23人〈内訳〉小学校教員 9名、中学校教員 4名、その他10名

グループ研修： 5名〈内訳〉小学校教員 5名

内 容：

全体研修：

《第1回》《第2回》講演「学習指導要領と学習評価をどのように授業で実現するか」

グループ研修：

《第1回》

小学校B「鑑賞指導を深める」グループ

教材「ハンガリー舞曲第5番」

「トランペット吹きの休日」

中学校A「鑑賞指導の基本を押さえる」グループ

教材「交響曲第5番」

中学校B「鑑賞指導を深める」グループ

教材「交響曲第5番」

《第2回》

小学校B「鑑賞指導を深める」グループ

教材「祝典序曲」

講師・助言者：

館 雅之 (神奈川県横浜市立太尾小学校校長)

(全体研修講師、第1回小学校Bグループ助言者)

井上 奈々 (東京都千代田区立千代田小学校主任教諭) (第1回小学校Bグループ助言者)

高道有美子 (東京都世田谷区立芦花中学校主任教諭) (第1回中学校Aグループ助言者)

勝山 幸子（東京都港区立御成門中学校主任教諭）（第1回中学校Bグループ助言者）
石井ゆきこ（東京都港区立芝小学校主任教諭）（第2回小学校Bグループ助言者）

監 修：

藤沢 章彦（財団理事、元国立音楽大学教授）

後 援：

全日本音楽教育研究会

②ONKANインターネットセミナー2023

よりよい音楽の授業を実現するために、多様で多角的な視点から音楽や音楽科教育について見つめ直し、新しい豊かな発想を開く場として、オンデマンド動画配信で開催した。

日 程：

《第1回》 6月 5日(月)～ 6月26日(月)（アーカイブ配信）

《第2回》 10月10日(火)～10月31日(火)

《第3回》 2月 5日(月)～ 2月26日(月)

受講者：

《第1回》 33人〈内訳〉 小学校教員 4名、中学校教員15名、高等学校教員2名、
その他12名

《第2回》 35人〈内訳〉 小学校教員13名、中学校教員14名、高等学校教員1名、
その他 7名

《第3回》 9人〈内訳〉 小学校教員 1名、中学校教員 3名、高等学校教員0名、
その他5名

内 容：

《第1回》 講演「ユニバーサルデザインの視点で考える音楽科の授業」

《第2回》 講演「今、音楽の授業で大切にしたいこと～音楽科教育の歴史、コロナ禍が提起したものを手がかりに～」

《第3回》 助成研究発表「生活や社会の中の音楽・音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成～『八戸三社大祭』を中心とする郷土の音楽の鑑賞指導と教材開発～」

講 師・発表者：

《第1回》 阪井 恵（明星大学教授）

《第2回》 津田 正之（国立音楽大学教授）

《第3回》 八戸市中学校郷土の音楽の授業研究会 研究チーフ 長者久保希史子

(2)研究大会・講習会等の後援

- 書籍「よくわかる！音楽鑑賞の授業づくり」に基づいた鑑賞指導の講習会への講師派遣。
学習指導要領と学習評価に基づいた音楽鑑賞の指導、授業のあり方の改善を目指して、各地区の音楽研究会等が主催する講習会に講師を派遣した。（対面開催2件／参加人数：約60名）
- オーディオ機器貸出
研究大会・講習会等で使用するオーディオ機器の貸出を行った。（2件）

(3)広報活動

- 事業案内パンフレットを作成し、約4,200部を教員に配布した。
- 出版物カタログを制作し、取引業者等に送付し販促した。
- 全日本音楽教育研究会全国大会富山大会、関東甲信越音楽教育研究会長野大会等に出展し、参加教員に対し事業を広報した。
- 各音楽教育研究団体研究大会の紀要等へ広告を掲載した。全日本音楽教育研究会全国大会他14件。
- ウェブサイト「ONKANウェブネット」やメールマガジン（約3,600人）、SNSを通し

て、事業情報や音楽教育に関わる情報をタイムリーに発信するとともに、ONKANウェブネット会員登録者（約2,700人）には「音楽鑑賞教育」誌のバックナンバー記事など授業に役立つ情報も発信した。

- 主催講習会の申し込みにも、決済機能付きのイベント管理サービスを導入した。クレジットカードなどの多様な決済手段により、参加希望者が申し込みしやすい環境を用意した。

3 出版・情報発信

(1) 季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行

季刊「音楽鑑賞教育」（V o l . 5 3 ~ V o l . 5 6）を年4回発行した。特集テーマは、編集会議を開催し、実践的な授業づくりについて、さまざまな角度から検討して決定した。

また、音楽の各ジャンルを概観でき教材研究に役立つ情報「音楽探究」を2つ、指導法の参考となる小学校・中学校・高校の授業展開例「私のRecipe」を各1事例掲載した。

令和元年度のV o l . 3 9から公募を始めた「私が工夫している授業紹介」は、子どもたちの学びに効果のあった授業、ICTを活用した授業などを引き続き募集し、応募実践を編集会議で検討して掲載した。

V o l .	通 巻	発 行 日	特 集 「音楽の授業づくり」
5 3	5 5 7号	4月1日	主体的に学習に取り組む態度の評価とその指導
5 4	5 5 8号	7月1日	どう取り組む？ 問題発見・解決学習
5 5	5 5 9号	10月1日	授業でワクワク！ 我が国や郷土の伝統音楽
5 6	5 6 0号	1月1日	音楽の学習を深める読譜力・記譜力

編集委員一覧 ※五十音順・敬称略

名 前	所 属 ・ 役 職
石上 則子	元東京学芸大学准教授
大熊 信彦	東邦音楽大学特任教授
加藤富美子	東京音楽大学客員教授
藤沢 章彦	財団理事／元国立音楽大学教授
山下 薫子	東京藝術大学音楽学部教授

個人定期購読プログラムとして「音楽鑑賞教育マイスター会員」を運営した。誌面の改善とともに、鑑賞教材のストーリーミング配信を行うなど会員特典を充実させ会員数増を図った。

(2) 書籍、映像資料の発行

「令和2年度 音楽鑑賞教育振興 助成研究募集」に入選された2件について、令和3年度から令和4年度の2年間にわたる研究の報告書を、音楽教育研究報告 第33号、第34号として出版した。

- 第33号 「生活や社会の中の音楽・音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成
～『八戸三社大祭』を中心とする郷土の音楽の鑑賞指導と教材開発～」
八戸市中学校郷土の音楽の授業研究会
- 第34号 「曲想や音楽の構造を感受し、言葉で表せる生徒の育成を目指して
～生徒が分かる、書ける音楽授業の展開～」
力田和歌子（長崎大学教育学部附属中学校）

(3) ウェブサイト「ONKANウェブネット」のリニューアル

音楽科教育についての情報発信を行うウェブサイト「ONKANウェブネット」は、運用開始から15年が経ちシステムが老朽化していたため、全面的なリニューアルを実施した。常時SSL、スマートホン対応などにより、安心安全で使いやすいウェブサイトとして再構築した。

Ⅱ 音楽鑑賞に関する論文募集による助成事業 (公益目的事業2)

定款第45条(選考委員会)の規定に基づき、第4条に掲げる研究助成の対象の審査及び褒賞に関する事項を審議する選考委員会を設置している。令和4年度の選考委員会は任期2年の2年目となり下記3名の方に委嘱した。

選考委員一覧 ※選考委員長を除き五十音順、所属及び役職は令和5年10月現在、敬称略

名 前	所 属・役 職
辻村 哲夫	選考委員長／元文部省初等中等教育局局長／財団常務理事
河野 正幸	聖徳大学名誉教授
嶋 英治	元福島大学特任教授

1 助成研究募集

令和5年度助成研究募集を実施した。実施に当たっては、選考委員会内に審査委員会を設置し、下記の3名の方に選考専門委員を委嘱した。

選考専門委員一覧 ※チーフ(◎)を除き五十音順、所属及び役職は令和5年10月現在、敬称略

名 前	所 属・役 職
◎藤沢 章彦	元国立音楽大学教授／財団理事
加藤富美子	東京音楽大学客員教授
津田 正之	国立音楽大学教授／全日本音楽教育研究会常任理事

(1) 募集内容

鑑賞領域の学びを中心とした、音楽科教育に資する実践的な研究

(2) 実施期間

募集期間：令和5年 7月 3日～ 9月29日	
審査選考：令和5年10月 6日	第1回審査委員会
令和5年10月 7日～10月31日	審査・第2回審査委員会
令和5年11月 1日～11月21日	最終選考・選考委員会本委員会
入選発表：令和5年12月 1日	ONKANウェブネット及び郵送通知
令和6年 4月 1日	入選研究計画発表 (季刊「音楽鑑賞教育」V o 1 . 5 7)

(3) 応募状況

応募数 1件

(4) 審査基準

次の①から④までを満たす研究計画である

- ①鑑賞領域の学びを中心としている
- ②これからの音楽科教育に資する内容である
- ③授業実践による検証を伴った研究である
- ④研究の成果が、音楽科教育において広く普及することが見通せるものである

(5) 入選結果

入選数 1件

入選者 (グループ研修) ミュージック エデュケーション メッセ (茨城県)

研究テーマ 音楽鑑賞における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の研究
～自ら探究的に鑑賞する児童生徒の育成を目指して～

(6)助成金
500,000円

2 賛助活動

全日本音楽教育研究会、公益財団法人日本オペラ振興会他、計6件に対して賛助を行った。

Ⅲ 音楽鑑賞活動の普及事業 (公益目的事業3)

1 財団保有の音楽関連資料の活用

松本記念音楽迎賓館のファンクラブの会合や館内見学の折、音源を使い、高品位の再生装置(TADシステム)での鑑賞を行なった。また館内の音楽資料室をご案内した。

2 財団主催コンサートの開催

～極上のアンサンブルを今宵あなたに～ピアノ五重奏曲「ます」”

10月22日 一般3000円 高校生以下1000円 成城ホールの295枚完売により満席

このコンサートは株式会社世田谷サービス公社の共催事業に応募してのもの。内容は日本のオーケストラを牽引する弦楽奏者と財団常務理事の渡邊學而の楽曲解説文、同理事・村沢裕子のピアノにより、各弦楽器の独奏を経た上で、アンサンブルのすばらしさを味わっていただく構成。中、高校生の聴衆も交え、大変楽しく評価の高いものとなった。

※渡邊學而×河野克典「シューベルトの歌曲についてのコンサート」は令和6年開催に延期

※音楽講座を3月9日開催で計画していたが、講師の体調不良により中止

3 財団後援・協賛コンサート

下記のコンサートは、財団が小学校低学年以下の幼児を含む演奏会に取り組むに当たり、企画内容、入場料など、財団が参考になるイベントについて、後援名義を許諾し、子どもが興味を持つ企画内容のコンサートに対しては、一部協賛をした。

- 2023～2024「モーツァルト物語」・「シューマン物語」・「ベートーヴェン物語」
主催：みむみむの森 全国展開で年間を通して開催。チラシ300万枚に後援名義使用を許諾。
- 2024年3月2日「ベートーヴェン物語」@松本記念音楽迎賓館 主催：みむみむの森
松本記念音楽迎賓館での開催回へは、協賛とした。
- 2023年12月10日「クリスマスコンサート」@松本記念音楽迎賓館
主催：テンポル・バート 「みどりの講座」開催日の午後に開催。協賛とした。
- 2024年3月23日「0さいからのマリimbaはじめてコンサート」@松本記念音楽迎賓館
主催：Marimba Blossom 開催趣旨、内容に対して、協賛とした。

4 電子書籍・音楽鑑賞ノートの販売

音楽をより楽しく鑑賞し、聴き深めるための電子書籍「聴いて発見！クラシック音楽のひみつ」及び音楽鑑賞の個人記録を綴るノートについて、販売を続けたが、大きな伸長は得られなかった。

5 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進

● 音楽に関わる人の育成

例年通り、Aホール等の空いている時間帯を、レッスン利用と称し、使いやすい価格での貸与

を通して、音楽愛好家の底辺を広げ、より身近な音楽鑑賞の機会を提供することに結びつく演奏者の育成を続けている。

● コンサートの支援

音楽鑑賞を振興する財団として、松本記念音楽迎賓館を他のホールにはない仕組みで運用し、それを活用する主催者や演奏家を通じて、人々の音楽鑑賞の機会を増やしている。

それは、どなたでも参加できる松本記念音楽迎賓館友の会の会員への支援で、入場収入が至らない場合に備え、ホール利用料を入場収入の半額とする共催制度であり、庭園の桜の賑わいに合わせた、平日の特別料金での演奏会の提供である。本年度もこれを実施した。

加えて、新型コロナウイルスの影響で、演奏活動に経済的な不安を抱えた演奏家や主催者に向け、令和4年1月から開始した、コンサート特例価格を本年も続けた。この適用対象はお客様からのチケット収入で成り立っているコンサートのみとし、会員制コンサートや演奏技能発表会には適用していない。

上記の策は徐々に一般に浸透し、演奏家や主催者からの好感を得ている。

6 チェンバロ音楽普及の支援

松本記念音楽迎賓館の存在がその企画の発端となった、日本チェンバロ協会主催の「チェンバロの日」は、本年度も5月20日、21日に開催され、チェンバロ奏者、チェンバロに関心をもたれる一般の方、チェンバロ業者が一堂に会する場として、有意義な支援を続けることができた。

その他、日本チェンバロの協会のイベントに協力したり、後進の指導の場としての松本記念音楽迎賓館を使いやすい価格での貸し出し協力を行った。

IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業 (公益目的事業4)

1 岡本地域緑地の保全活動

世田谷区の保存樹林地に指定された松本記念音楽迎賓館の庭園を保全した。

2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施

年3回のみどりの講座は、下記の内容で、NPO法人せたがや水辺デザインネットワークの実施協力で開催した。森林の形態や湧水、水辺の生き物や植物の説明は、ナチュラルリンクトラストの小出仁志氏はじめ樹木の専門家の関口克己氏の実地指導で行われた。本年度は子ども参加枠を設けたことにより、ファミリー参加が増えた。講座も小学生を意識した内容に切り替えを依頼した。

また、講座終了時刻に合わせ、子どもに体験させたい音楽イベント（リハーサルや演奏会）を組み合わせ、自然環境保護と生の音楽を両方体験できる音鑑らしい配慮をし、大変好評だった。

※ () 内数

講座名	開催日	講座内容	受講者数
第1回	4月30日(日) 10時から14時	松本記念音楽迎賓館の植物 崖線樹木の機能と役割	27名 (子5名)
第2回	10月22日(日) 10時から14時	崖線の秋の植物、周辺の水辺と湧き水 水の流れと水辺の生き物	20名 (子4名)
第3回	12月10日(日) 10時から14時	クリスマスリースの素材 知る地域の 自然	23名 (子6名)

V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業 (収益事業)

音楽鑑賞振興財団が保有する松本記念音楽迎賓館の諸施設を、公益事業目的Ⅲ以外の目的で貸与し、収入を得ている。

収入の核となるドラマの撮影日数は、11回と少なく、収益の目論見を下回った。閑静な住宅街であり、ご近隣に配慮した形で撮影を受けているが、本年度はロケの打診はあるものの、門回りの撮影について撮影条件を狭めたことで、お断りせざるを得ないケースが数件あった。

新型コロナの感染症分類5類化に伴い、パーティやお茶会のご利用者も徐々に戻りつつある。

結婚式のご利用については、ブライダル業者が独自に広報し、また有力ブライダル誌（紙媒体およびホームページ）への掲載をしたが、問い合わせ及び館内見学に至るケースはなかった。松本記念音楽迎賓館の魅力は、実際ご覧いただかないと伝わらない部分があり、ご来館の適齢の方への広報活動も行っていきたい。